

# 無線放送

## いよいよ始まる

數年前から私どもが待つてゐた。無線放送がいよいよ三月から始まりました、無線放送といふのは改めて説明するまでもなく、無線電話で音楽や新聞や

御話などを送り出すことで、無線電話です。丁度光が四方八方に散るやうにあらゆる方向にひろがって行きまして、その周囲、何里かの内は器械さへあれば誰でも聞くことができるのです。一個所で送り出すものを、何十萬何百萬の人でも同時に聞くことができませうか。これを利用したならば、世の中がどのくらい進歩するかわかりませ

ん。單に娯樂の道具と思ふのは、大間違ひです。

それはさておき、この無線放送を始めるに、政府が秘密に送受してゐる無線電信や、電話も聞くことができるので政府は、びく／＼してな

か、許さなかつたのです。しかし、無線好きの人々がやかましくせがむので始めないわけに行かず、たうとう始めたわけです。尤も、民間の會社にさせると、やり方によつては儲ることです。それから、われも／＼と願ひ出て、それを許してよいかわからなくなり、ますますから、社團法人といつて、利益を目的としない人々の集りをつくらせ、それがやることになつたのでせう。

### 放送局

には、口繪にも圖解した通り特別な建物やいろ／＼の機械が入用なのですが、それがまだ、そ

はない間、假に、芝浦の工藝學校の一部に設け、そこから送ることにし、三月一日から始めようとしたのが、工事の都合で、少し延期しその間試験放送を行ひました。三月一日に放送されたものは、海軍々樂隊のオーケストラ、尺八琴三味線の合奏、イタリ歌劇團のソプラノ獨唱、長唄の越後獅子等でありました。左の寫眞は、イタリの歌劇團が獨唱してゐるところで、前にある澤山孔のあいたものが、送話器です。尙三月二十二日から本式に放送が始まりました。

無線放送は、東京を中心にして東は水戸、北は宇都宮、西は沼津邊までに居る人は本號に濱地先生の御書き下さつた受信器を用ゐれば聞くことができます。手續さへすれば別に器械を試験して貰はなくてもかまひません。料金はそのうちにとり廻るさうです。手續きについては濱地先生が後の方にかいて下さいました通りです。

# 送<sup>り</sup>放<sup>つ</sup>線<sup>を</sup>無<sup>の</sup>の式<sup>を</sup>正<sup>し</sup>てめ<sup>じ</sup>は<sup>で</sup>本<sup>日</sup>に



つまじはが送<sup>り</sup>放<sup>つ</sup>線<sup>を</sup>無<sup>の</sup>の式<sup>を</sup>正<sup>し</sup>てめ<sup>じ</sup>は<sup>で</sup>本<sup>日</sup>に  
 送<sup>り</sup>放<sup>つ</sup>假<sup>を</sup>は 2 族<sup>を</sup>家<sup>の</sup>の巨<sup>と</sup>大<sup>信</sup>と通<sup>を</sup>差<sup>を</sup>大<sup>に</sup>聞<sup>を</sup>なれそは 1 だ。  
 送<sup>り</sup>放<sup>つ</sup>の團<sup>が</sup>劇<sup>は</sup>歌<sup>か</sup>利<sup>り</sup>太<sup>伊</sup>の夜<sup>や</sup>晝<sup>を</sup>同<sup>は</sup>は 3 線<sup>が</sup>中<sup>を</sup>空<sup>の</sup>の局<sup>を</sup>

